

## ●日本の読者諸兄へ



大島一成

1960年福岡県出身  
1980年岐阜県立衛生専門学校  
校歯科技工学校卒業  
1985年渡独  
1985年Dental Studio  
i GmbH Rolf  
現 在Herrmann 勤務  
(ドイツ・デュッセル  
ドルフ市)  
1992年ドイツにてマイスタ  
ーの称号取得

### ヨーロッパ歯科技工士の“dental labor”誌活用法

ドイツ歯科界に籍を置くもので“dentallabor”誌を購読していない者は数少ない。この雑誌が、歯科技工士はもとより歯科医師、歯科メーカー、DEPO（歯科材料販売店）に至るまで、数多くの愛読者を獲得しているのは、学術論文から歯科界の政治経済状況、講演会、講習会情報のみにとどまらず、業界の最新トピックス、就職情報やマイスター試験の傾向と対策まで、斯界のあらゆる情報を提供し続けてきたからにほかならない。

日本と同様、資源に乏しいドイツにおける大戦後の目覚ましい復興政策は、国民の学力レベルの向上と工業加工物のハイクオリティ化に産業的基準が置かれた。同様に現代の歯科界においても、学術レベルの向上に経営方針の中心を置かなければ、年々深刻化する保険制度の引き締めと斯界での過当競争には対応できない。その意味で、新技術、新材料、そして新情報を素早く提供するこの雑誌は、斯界のレベルの向上に貢献している。

ドイツのクナイペ（居酒屋）で、きまって耳にするテーマは政治、そして車とサッカーの話題である。国勢調査によると、ドイツ人青少年の政治的関心度は85%といわれ、厚い年代層での高い政治への関心度がうかがえるように、業界のニュートラルな政治経済的情報は欠かすことができない。高視聴率を有するテレビ番組を見ていなければその日の話題についていけないように、“dental labor”を愛読していなければ歯科界でのテーマについていけない。特に議論好きなドイツ人にとって致命的である。

このように、この雑誌の斯界への影響力は想像を絶するものがあり、今回の「歯科技工」と“dentallabor”との提携は、いろいろな意味で大きな事業となるであろう。心からエールを送りたい気持ちで一杯である。



大久保雄司

1965年広島県出身  
1968年京都歯科医療専門学校  
校技工士科卒業  
1991年渡独  
1993年Braunwarth  
Zahntechnik  
勤務(ドイツ・シュ  
ツットガルト市)

### リアルなテクニック写真に溢れる“dental labor”誌は原書でもわかりやすい

“dental labor”誌は、ドイツの二大歯科技工雑誌のうちの一つである。特徴は、ビッグサイズの判型で上質な紙を使用しているためカラーページがきれいだ。広告が多く新製品情報がいち早くわかる、研修コースの情報が詳しく載っている、ということであろうか。これらの情報は、私も大いに活用させていただいている。

特に、われわれ歯科技工士は職業柄、実際にものを自分の目で確認しながら“見る”という癖がついている。その点、良質なカラーページ上に繰り上げられる“Technik”コラムの写真はたいへん役に立つことが多く、新刊が届くたびに期待してページをめくっている。

いままで日本では、ごく一部にしか同誌の内容が伝えられていなかったと思うが、これからは、より多くの日本の方たちにドイツの情報が伝わることになるだろう。そして“Technik”中のカラー写真を通じて、アジアとヨーロッパのテクニックとを融合させることで、われわれ日本、さらには世界の歯科技工の向上に貢献しようではありませんか。



山下敦子

1965年兵庫県出身  
1985年岡山歯科技工専門学校卒業  
1993年渡独  
1993年 Dental labor  
Fehmer 勤務（ドイツ・シュツットガルト市）

### ドイツで歯科技工をするうえで“dental labor”誌は指針を与えた

ドイツで仕事を始めたころ、技術の高さ、仕事のていねいさに驚いた。一軒の歯科技工所ですらこんなに驚くことが多くあるのだから、ほかの歯科技工士はどんなにすばらしい作品を作っているのか知りたくなる。そのために、講演会にもときどきは出席し、また毎月欠かさず“dental labor”誌を購読している。

この雑誌にはいつもよい文献が多数掲載されているので、非常に興味をもって誌面に接するし、また勉強にもなる。特にドイツ語が不得意な外国人である私は、講演会などではよく説明が聞き取れずに悔しい思いをするのだが、雑誌であれば辞書を片手にマイペースで読むことができる。非常にありがたい存在である。

しかしながら、ドイツ語の文献を読みながら、“これが日本語であったならば……”と思うことがしばしばであることは、いまでも同じである。

今回、その願いが叶うことになり、ヨーロッパ在勤の私たちにとってもたいへんに意義深いことだと思う。また、当然のことながら、日本の歯科技工士の方々にとっても、ヨーロッパの情報を吸収できるよい機会ができたことになるであろうし、そこに展開される技術水準には驚かれることでしょう。



佐々木良二

1966年愛知県出身  
1987年東海歯科医療専門学校卒業  
1991年渡独  
1991年 Busch Dental  
Thun 勤務（スイス・トゥーン市）

### ヨーロッパ歯科界で評価される“dental labor”誌

ヨーロッパにおける歯科技工士のための代表的な専門誌として“dental labor”誌は位置付けられています。歯科技工士のニーズにあった、また時代の流れを敏感に反映した編集が読者の興味を引きつけ、結果としてヨーロッパの歯科界に大きく貢献していると高い評価を得ている。

今日のヨーロッパにおける歯科技工技術の発展には目を見張るものがあります。それだけに、“dental labor”誌がヨーロッパ歯科技工界に果たす役割は、ますます大きくなるでしょう。と同時に、今後の世界的な情報の広がり考えた場合、世界の歯科技工士のための専門誌として、この雑誌が情報交換の場としての機能を、より高度に果たすことを期待するものです。

## Perspektiven

Zahntechnik"raus aus der RVO"Ein Gerücht? Ein Schock? Ein Traum? 3

## Technik

Der SR Postaris von Ivoclar-ein Seitenzahn und seine Philosophie 65

Burkhardt, H. J.:Vorsicht Glas? Erfahrungen mit einem neuen Werkstoff 73

Stuke, G.: Die Meisterprüfung im Zahntechnischen Handwerk 87

Bonatz, Dr. V.: D. Dentalphotografie im zahntechn. Labor./2. T. 89

Brämer, Dr. W./H.Kreutzer/s. Schmid/Ch. Sofsky: Der Qualitäts-guß mit den Combilabor-Vakuum-Druckgießgeräten 93

2. Colloquium dental Zum Thema Implantatprothetik 118

## Ausbildung

Leier, K./H.-M.Soltner: Die Fräs-technik: Indiv. T-Geschiebe 105

## IZK

Alles neu in Südbayern: Eigene SZI-Wirtschafts-GmbH gegründet 25

Gewinnausschüttung ist Rück-vergütung 25

Zahnarzt beklagt Fremdlabor-Gebühren 25

## Journal

Erster Kurs für Gehörlose im Fortbildungszentrum Bergodent 32

Esthetic dentistry-Europäischer Markt boomt 35

Der deutsche Geldanleger und die Währungsunion 42

Jahreshauptversammlung des Ver-eins der ehemal. Meisterschüler 45

Degussa direkt: Gold-Berufs-politik-Marketing 46

BBZ Völklingen: Geräte-Spenden für Schullabor 48

GC-Corporation: Symposium und Sightseeing in Japan 48

Wieland Edelmetalle: Entsorgen nimmt zu. Scheiden tut weh 50

Schiffsbeteiligung: Schwimmende Steuerparadiese 50

Schein trügt:Mit Leasing billig in die Falle 50

Dank Datenbank: Soforthilfe am Telefon 50

Uni-Fach Prothetik: Gefahren drohen vom Zahntechniker 50

Steuern und Recht 114

## Fortbildung

Zahntechniker-Tage in St. Moritz: Programmvorschau 156

## Bücher

Zahnarzt beschreibt Zahn-medizin anno domini 52

Zahnärzte-Kalender: Vor-und Nachteile des Praxislabors 52

Dental Vademekum schafft Durchblick 52

## Reportagen

Zu-Besuch bei Dentallabor Herzog in Bietigheim-Bissingen 30

## Gesundheit

Rücken-Aktiv-Wochen speziell für Zahntechniker 28

## Namen

Bego-Chef Joachim Weiss-50jähriges Jubiläum 56

Bregler, Offenburg: Zwei Jubilare feiern "Silbernes" 55

Bundesverdienstkreuz für Zahntechnikermeister 55

3i-Implantatsystem: D. R. Gieselmann leitet Vertrieb 56

Ivoclar/Vivadent/Williams-Zertifizierung in Ellwangen 56

model-tray GmbH: zertifizierung mit Urkunde bescheinigt 55

Roeko im Kreis der Zertifizierten 55

Schüle, Erich, 25 Jahre bei Wiesmaier 55

Handelsregister 58, 60

## Termine

Kurse 123

Kongresse 132

## Industrie

Neuheiten-Geräte-Materialien 98

## Letzte meldungen

Bundesleistungswettbewerb: Ostdeutsche Jungtechniker besonders erfolgreich 132

Berufsbilder neu:Verhandlungen mit IG-Metall in Sicht 132

Goldpreis '95: Eingependelt 132

Schuler, Peter, tot 132

Impressum 16



連載にあたり、1月号ということにかかわらず“dental labor”誌の内容的流れを解説したい。毎号、巻頭に、社長である Dr. J. Lingenberg 氏の序文が記載されるが、今回は年頭にあたり、来年度に控える大幅な保険制度改正を意識して、RVO (Reichsversicherungsordnung: 帝国保険条項) からの歯科技工料金の離脱法案の事項について述べられている。特に、“すべての補綴物が BEB (自由診療報酬リスト) の領域に位置付けられることから、自由競争の促進化と製作物の高品質化にメリットが置かれるが、斯界全体の需要の低下と資本流通の抑制が懸念される”という意見が興味深い。言い換えると、ドイツ歯科界は政府保護下の医療保険制度によって多大な恩恵を受け過ぎていているという世論と各保険会社の経済的困窮状態の問題を抱え、施行されればこれまでにない最大級の改正となる。

Lingenberg 氏の序文の後に、目次、編集(社主: E. R. Bissinger 氏、編集長: Ralf Suckert 氏、レイアウト: Angelika Suckert 女史)、および編集委員の紹介を経て、業界のトピックス、特に目を引く講演会(今回はイタリアで行われた審美学会“Colloquium dental”に関する情報; 日本からは田中朝美先生・青嶋仁先生が出席された)、講習会情報へと続き、学術論文の項へ移行する。

学術論文においては二つの新材料についての紹介があった。一つはイボクラール社の天然歯を意識して開発された新しい既製レジン白歯“SR Postaris”(抜去天然歯の平均値から割り出した形態、大きさ、色調を兼ね備えた人工歯)について開発に携わったヨーロッパ咬合学会の3人の権威(Prof. Dr. Marxkors, Prof. Dr. Marinello, Prof. Dr. Slavicek ら)が質疑応答形式で解説を行っている。二つ目は WEGOLD 金属会社の新しいガラスセラミックス材料“Evolution & Revolution”(ZTM. M. Polz 氏によって開発された通常のゴールドメタルおよびセラモメタル用の2種のメタルに対応するガラスセラミックス材料)の臨床例の紹介である。今月号はこの二つの商品紹介に関する論文が大きな位置を占めており、年頭に当たる1月号としては学術的論文に欠けることから物足りない気がしたのは筆者のみであろうか……。

ただしシリーズ論文となっている ZTM. K. Leier & ZTM. H.-M. Soltner らによる“マイスター試験の傾向と対策”に関する論文は、各種アタッチメントおよびそれに対応した切削材の選択から理想的回転数まで詳細に解説されており、ミリングの基本的ノウハウを列記した優れた論文である。

最後に年間の講演会・講習会を表記し、就職情報にて頁を終わる。

ドイツ・デュッセルドルフ市/  
Dental Studio GmbH Rolf Herrman

大島 一成